

## 龍雲凶屏風

番



この絵は俵屋宗達が書いた龍雲凶屏風。墨の濃淡や筆さばきで龍の力強さが伝わってくる。書かれているのは夜空をまう一頭の大きな龍と満月。

この龍の表情を見てみよう。大きな見た目とは裏腹に少し悲しそうな表情をしている。どこかでけがでもおたのたろうかその表情を満月が明るく照らしている。龍全体を写しているのではない暗やみからひっそりと現れた龍の姿をこのように書くのは見事だ。龍の毛なみを見てみると一本一本がせんせいに書かれているのがわかる。この絵は水墨画だ。白い毛を書くには、まわりをぬらなければならぬ。黒い毛を一本一本書くより大変だと言ったことがよくわかる。水墨一色だからと書いて簡単だとはおきこらない。せんせいやうだいたんやでこの水墨画は成り立つ

この子は「龍雲凶屏風」です。俵屋宗達さんが書いた絵です。この子の文を読むと、絵の深さが伝わってきます。よく深めましたね。